

宇佐美幸彦教授略歴および研究業績

その他のタイトル	Lebenslauf und Publikationen von Prof. Yukihiro Usami
雑誌名	独逸文學
巻	61
ページ	3-13
発行年	2017-03-20
URL	http://hdl.handle.net/10112/10862

宇佐美 幸彦教授 略歴および研究業績

略 歴

- 1946年10月 愛知県名古屋市にて誕生
- 1965年 3月 愛知県立明和高校卒業
- 1965年 4月 大阪外国語大学外国語学部（ドイツ語学科）入学
- 1969年 3月 大阪外国語大学外国語学部卒業
- 1969年 4月 大阪外国語大学大学院修士課程入学
- 1971年 3月 大阪外国語大学大学院修士課程修了
- 1971年 4月 大阪府立大学教養部助手
- 1974年 4月 関西大学文学部専任講師
- 1977年 4月 関西大学文学部助教授
- 1977年 9月 ドイツ民主共和国国費留学生（DAAD 奨学生）としてライプツィヒ大学で研究滞在（1979年 3月まで）
- 1981年 9月 ライプツィヒ大学文学博士（Dr. phil.）
- 1984年 4月 関西大学文学部教授
- 1985年 4月 フンボルト奨学生としてジューゲン大学で研究滞在（1986年 9月まで）
- 1997年 4月 関西大学研修員としてジューゲン大学で研究滞在（1997年 9月まで）
- 2001年 4月 関西大学在外学術研究員としてアメリカ合衆国アイオワ大学およびバルリン・フンボルト大学で研究滞在（2002年 3月まで）
- 2010年 4月 関西大学在外調査研究員としてイタリア・フィレンツェ、マックス・プラント美術史研究所で研究滞在（2010年 9月まで）
- 2014年 4月 関西大学文学部特別契約教授

研究業績

著書

Japanische Dichter am Wendepunkt, Verlag Peter Lang, 1987年3月

ジョージ・グROSS、関西大学出版部、1988年3月

ベルリン文学地図、関西大学出版部、2008年3月

ビルダーボーゲンの研究、関西大学出版部、2016年3月

ドイツ語教科書

新ドイツ語教本、共著、朝日出版社、1975年4月

どいつ・ひとくにことば—文法、共著、朝日出版社、1981年4月

どいつ・ひとくにことば—読本、共著、朝日出版社、1981年4月

ハイネ小読本、共著、同学社、1982年9月

ドイツ語・コミュニケーション-文法、共著、東洋出版、1993年4月

ドイツめぐり、共著、朝日出版社、1999年4月

ドイツめぐり (ユーロ版)、共著、朝日出版社、2004年4月

著書・分担執筆

ハイネ『ドイツ冬物語』、『文学の基礎理論』、ミネルヴァ書房、1974年
5月

『フランスの状態』について、井上正蔵記念論集『ハイネとその時代』、
朝日出版社、1977年10月

ハートフィールド兄弟とグROSSの青春、講座『青年』、清風堂書店、
第1巻、1990年8月

西ドイツに暮らして、講座『青年』、清風堂書店、第3巻、1991年1月

訳書

ゲオルク・フォルスター作品集、共著、三修社、1983年12月 (日本出版
文化賞受賞)

現代ドイツ詩集、共著、三修社、1991年3月

ドイツの文芸検閲史 (ディーター・ブロイアー著)、共著、関西大学出
版部、1997年6月

- ゲオルク・フォルスター（ウルリヒ・エンツェンスベルガー著）、共著、
関西大学出版部、2002年3月
本当の望み（フォルカー・ブラウン作品集）、共著、三修社、2002年7
月（マックス・ダウテンダイ賞受賞）
ダダの詩（カール・リーハ編）、関西大学出版部、2004年5月

学術論文

- T. W. アドルノの作家批評について「ハイネの傷」、大阪外国語大学
Spache und Kultur 第6号、1971年3月
ハイネの音楽評論について、大阪府立大学『独仏文学』第6号、1972年
9月
『ルテーチア』研究試論、大阪府立大学『独仏文学』第7号、1973年12月
詩群 Lazarus について、関西大学『文学論集』第25巻1-4 合併号、
1975年11月
ハイネの Der Apolllogott について、阪神ドイツ文学会『ドイツ文学論攷』
第18巻、1976年12月
ハイネと「傾向文学」—Atta Troll を中心に—、関西大学『独逸文学』
第21号、1977年3月
傾向詩について（その一）—ゲオルク・ヘルヴェークと中野重治—、
関西大学『独逸文学』第23号、1979年3月
"Seki" (Der Husten) von Shigeji Tsuboi、大阪外国語大学 *Sprache und
Kultur* 15号、1981年2月
マインツ革命とフォルスター、ワイマル友の会『研究報告』6号、1981
年5月
Hiroshi Makimura "Byron, Heine"- zur Heine-Rezeption in Japan, Goethe-
Institut Osaka, "Protokoll" Nr.6、1981年12月
Shigeru Taki- ein Streit um die realistische Dichtung in Japan in den 30er
Jahren、関西大学『文学論集』第34巻1号、1984年11月
Japanische Übersetzungen aus der deutschen Literatur in der Meiji-Zeit,
Text & Kontext, Kopenhagen/ München, No. 12.1, 1984
Kyojiro Hagiwara- Ein japanischer dadaistischer Dichter in den 20er
Jahren, *Sprache im technischen Zeitalter*, Berlin, No. 99, 1986年9月

Heine-Rezeption in den 20er und 30er Jahren in Japan, *Zeitschrift für Germanistik*, Leipzig, 9. Jg. H. 1、1988年2月

Prenzlauer Bergの文学、日本独文学会『ドイツ文学』第95号、1995年10月

Zahlen – japanisch, *Diagonal*, Universität-GH-Siegen, Jg. 97/ H. 2, 1997

Brücken in Tokio, *Diagonal*, Universität-GH-Siegen, Jg. 98/ H. 1-2, 1998

ヴィルヘルム・ブッシュ『パドゥアの聖アントニウス』について、関西大学『独逸文学』第43号、1999年3月

Zur Geschichte des japanischen Dadaismus in den 20er Jahren、関西大学『独逸文学』第44号、2000年3月

『於母影』の詩について—ドイツ文学の立場から、『森 鷗外—受容の諸相—』遊文舎（大阪市）、2003年3月

大都市とジョージ・グロスの文学作品、関西大学『文学論集』第54巻3号、2005年1月

ジョージ・グロスと宙返りの世界、関西大学『文学論集』第55巻第3号、2005年12月

ジョージ・グロスの文学作品における「新世界」、関西大学『文学論集』第56巻第3号、2007年1月

ブラジルにおけるドイツ系移民について、関西大学人権問題研究室『紀要』第54号、2007年7月

ハイネの物語詩の民衆性、『ハイネ逍遙』第1号、2008年6月

ヴァルター・メーリングの初期文学作品について、関西大学『独逸文学』第53号、2009年3月

ハイネと「ユダヤ文化学術協会」、『ハイネ逍遙』第2号、2009年6月

グスタフ・キューンの文学的テキスト付き初期ビルダーボーゲン、関西大学『独逸文学』第54号、2010年3月

ハイネのベルリン生活、『ハイネ逍遙』第3号、2010年6月

19世紀中葉におけるグスタフ・キューン社発行の文学的テキスト付きビルダーボーゲンについて、関西大学『独逸文学』第55号、2011年3月

シリングとの「文筆戦争」、『ハイネ逍遙』第4号、2011年5月

エーミケ・ウント・リームシュナイダー社の初期ビルダーボーゲンにおける文学的テキスト付作品、関西大学『文学論集』第61巻第3号、2011年12月

- ビルダーボーゲンに見る家庭観、関西大学人権問題研究室『紀要』第63号、2012年3月
- キューン社の後期の文学的テキスト付ビルダーボーゲン、関西大学『独逸文学』第56号、2012年3月
- フライリヒラートとハイネ—初期のフライリヒラートの作品をめぐって—、『ハイネ逍遥』第5号、2012年5月
- カスパー・ブラウン、フランツ・フォン・ポッツィとミュンヘン・ビルダーボーゲン、関西大学『独逸文学』第57号、2013年3月
- ビルダーボーゲンにおける人種問題、関西大学人権問題研究室『紀要』第65号、2013年3月
- ハイネとフライリヒラート(2)、『ハイネ逍遥』第6号、2013年5月
- ムッテンターラー、シュヴァイントとミュンヘン・ビルダーボーゲン、関西大学『文学論集』第63巻第1号、2013年7月
- リヒテンヘルト、シュテルツレとミュンヘン・ビルダーボーゲン、関西大学『文学論集』第63巻第2号、2013年9月
- カール・シュタウバーとミュンヘン・ビルダーボーゲン、関西大学『文学論集』第63巻第4号、2014年2月
- オスヴァルト・ジッケルトとミュンヘン・ビルダーボーゲン、関西大学『独逸文学』第58号、2014年3月
- ハイネとフライリヒラート(3)—「転向」の問題をめぐって—、『ハイネ逍遥』第7号、2014年5月
- エドゥアルト・イレとミュンヘン・ビルダーボーゲン、関西大学『文学論集』第64巻第2号、2014年9月
- ヴィルヘルム・ブッシュとミュンヘン・ビルダーボーゲン、関西大学『独逸文学』第59号、2015年3月
- メッケンドルファーとミュンヘン・ビルダーボーゲン、関西大学『文学論集』第64巻第4号、2015年3月
- ハイネの『ポーランドについて』、『ハイネ逍遥』第8号、2015年5月
- アードルフ・オーバーレンダーとミュンヘン・ビルダーボーゲン、関西大学『独逸文学』第60号、2016年3月
- ハインリヒ・ハイネとヴィルヘルム・ブッシュ、『ハイネ逍遥』第9号、2016年5月

学術論文翻訳

- ヘルムート・クロイツァー「スペイン戦争文学について」(翻訳)、関西大学『独逸文学』第27号、1983年3月
- カール・リーハ「『時間体験』としての『大都市』—同時進行性の原理について—」(翻訳)、関西大学『独逸文学』第29号、1985年3月
- クラウス・フォンドゥング「ナチズムの文学」(翻訳)、関西大学『文学論集』第42巻3号、1993年2月

書評

- 木庭宏(著)『民族主義との闘い—ハインリヒ・ハイネ「ドイツ冬物語」研究』、阪神ドイツ文学会『ドイツ文学論攷』第29号、1987年12月
- 平井正(著)『ドイツ・悲劇の誕生 ダダ／ナチ』、日本独文学会『ドイツ文学』第94号、1995年3月
- 芝田豊彦(著)『ドイツにおける神秘的・敬虔的思想の諸相—神学的・言語的考察』、阪神ドイツ文学会『ドイツ文学論攷』第49号、2007年12月
- 可知正孝(著)『詩人ヘルヴェークとハイネ』、『世界文学』第115号、2012年7月
- 大野寿子(編)『超越する異界』、阪神ドイツ文学会『ドイツ文学論攷』第55号、2013年3月

その他

- (追悼文) 研究者と行動する人としての八木先生、ワイマル友の会『研究報告』12号、1987年
- (紹介) ベルリンの新ユダヤ博物館、関西大学人権問題研究室『室報』29号、2002年6月
- (対談) 民族を越え、人間としてともに考えよう、関西大学人権問題委員会『ともに生きる—人権問題と大学』、2003年3月
- (評論) グリム童話の中のユダヤ人、関西大学人権問題委員会『ともに生きる—人権問題と大学』、2003年3月
- (講演記録) ベルリン「バラ通り」の女性たち、関西大学人権問題研究室『人権問題研究室公開講座 2002』、2003年3月

- (教学レポート) 世界の文学 (ドイツ文学)、関西大学視聴覚教室『関西大学視聴覚教育』27号、2004年3月
- (調査報告) ハイデルベルクのシンティ・ロマ資料・文化センターについて、関西大学人権問題研究室『室報』33号、2004年6月
- (講演記録) 世界周航家ゲオルク・フォルスターの生涯、関西大学人権問題研究室『人権問題研究室公開講座 2004』、2005年3月
- (調査報告) 台湾での歴史教科書に関する調査、関西大学人権問題研究室『室報』43号、2009年7月
- (研究紹介) ノイルピーン・ビルダーボーゲン、関西大学人権問題研究室『室報』46号、2011年1月

講演

- Zur Geschichte der japanischen Schlagermusik - Expansion auf dem Kontinent und die Schlagermusik, Volkshochschule Stendal、1997年5月26日
- Lieder in den Kriegsjahren - Mobilmachung der Kultur und paradoxe Aspekte der Bevölkerung, Universität GH Siegen、1997年6月23日
- Die japanische Schlagermusik vor und in dem Zweiten Weltkrieg, Universität GH Duisburg、1999年11月3日
- ベルリン『バラ通り』の女性たち、関西大学人権問題研究室公開講座、2002年10月25日
- 世界周航家ゲオルク・フォルスターの生涯 関西大学人権問題研究室公開講座、2004年6月25日
- 森鷗外のドイツ留学と笛の音、日文演講會 (台湾・静宜大學)、2008年12月23日
- 「ビルダーボーゲン」に見る人種・民族問題、関西大学人権問題研究室公開講座、2016年6月24日
- 初期ヒュルゼンバックについて、関西大学独逸文学会第109回研究発表会 (関西大学)、2016年11月12日

研究発表

- ハイネの音楽評論について、阪神ドイツ文学会第63回研究発表会 (大阪府立大学)、1972年4月5日

- Lazarus における譚詩の精神、阪神ドイツ文学会第74回研究発表会（神戸大学）、1975年1月26日
- ハイネの *Der Apollon* について、関西大学独逸文学会第41回研究発表会（関西大学）、1975年12月7日
- 帰朝報告、関西大学独逸文学会第47回研究発表会（関西大学）、1979年7月1日
- Fragmente eines Briefes an einen deutschen Schriftsteller über Schillers >Götter Griechenlands<、Forster 研究会（大阪府立大学）、1979年8月29日
- Forster: *Über das Verhältnis der Mainzer gegen die Franken* 紹介、ワイマル友の会（関西）例会（立命館大学）、1979年10月27日
- シンポジウム報告「なぜゲルマニスティクか?」、関西大学独逸文学会第48回研究発表会（関西大学）、1979年12月2日
- Leitfaden zu einer künftigen Geschichte der Menschheit*、Forster 研究会（立命館大学）、1980年5月25日
- Claus Träger: *Aufklärung und Jakobinismus in Mainz 1792/1793*、Forster 研究会（東淀川勤労者センター）、1980年8月29日
- Forster の書簡、Forster 研究会（東淀川勤労者センター）、1980年9月28日
- マインツ革命と Forster、ワイマル友の会（関西）例会（東淀川勤労者センター）、1980年10月10日
- マインツ革命とフォルスター、ワイマル友の会第7回研究集会（京都大学）、1980年11月22日
- Hiroshi Makimuras >Byron, Heine< - Zur Heine-Rezeption in Japan, 6. Ferienseminar für Germanisten und Deutschlehrer, Osaka (Goethe-Institut Osaka), 1981年3月13日
- Vom Brodbaum*、Forster 研究会（東淀川勤労者センター）、1981年4月4日
- Geschichte der Englischen Literatur 1788, 1789*、Forster 研究会（関西大学）、1981年8月31日
- 1840年代前半の「傾向詩」とハイネ、日本独文学会秋季研究発表会・シンポジウム「ハイネの『ドイツ冬物語』をめぐる諸問題」（愛媛大学）、1981年10月6日
- Japanische Übersetzung aus der deutschen Literatur in der Meiji-Zeit 1868

- 1912, Kolloquium mit Prof. Dr. Helmut Kreuzer, „Trivialliteratur“, (関西大学)、1982年9月29日
- ゲオルク・フォルスターについて、関西大学独逸文学会第56回研究発表会 (関西大学)、1983年12月4日
- Die Satire Georg Weerths – besonders seine Gedichte in der >Neuen Rheinischen Zeitung<, Symposium mit Prof. Dr. Karl Riha, "Politische Lyrik des 19. Jhs.“, (関西大学飛鳥文化研究所)、1984年9月30日
- ジョージ・グロッセとバルリン・ダダ、関西大学独逸文学会第62回研究発表会 (関西大学)、1986年12月14日
- バルリン・ダダ、ワイマル友の会例会、1986年12月23日
- Über die Heine-Rezeption in den 20er Jahren in Japan und Deutschland, Wissenschaftliches Kolloquium von Germanisten Japans und der DDR, (NFG. Weimar, ヴァイマル古典文学研究所)、1987年3月27日
- DDR-日本合同コロキウムを終えて、ワイマル友の会例会 (立命館大学)、1987年4月26日
- Der Bürgerfreund* 1793 XIV-XV、Jakobiner 研究会 (関西大学)、1987年11月2日
- 帰朝報告、関西大学独逸文学会第87回研究発表会 (関西大学)、1998年7月13日
- Der Bürgerfreund* 1793 II-V、Jakobiner 研究会 (関西大学)、1987年11月28日
- Hans Richter: Ludwig Börne 1987- Anmerkungen zu Stand und Perspektiven der Forschung nach zwei Jubiläen、ワイマル友の会研究懇談会 (早稲田大学)、1987年12月19日
- Der Bürgerfreund* 1793 XVIII-XIX、Jakobiner 研究会 (関西大学)、1988年7月23日
- Der Bürgerfreund* 1793 XXVI-XXVII、Jakobiner 研究会 (関西大学)、1988年11月19日
- Die Französische Revolution im Spiegel der deutschen Literatur* (Hg. v. Träger), F. Cotta und G. Wedekind. 1989年5月13日
- Die Französische Revolution im Spiegel der deutschen Literatur* (Hg. v. Träger), G. Wedekind、Jakobiner 研究会 (関西大学)、1989年6

月17日

Bert Papenfuß-Gorek における DDR 詩の新しい試みについて、日本独文学会秋季研究発表会・シンポジウム「最近の DDR 詩について」(大阪大学)、1989年10月14日

ドイツ現代詩集—東ドイツの詩人たちについて、ワイマル友の会(関西)例会、1991年4月21日

Eine andere Sprache: Experimente junger Lyriker – Bert Papenfuß-Gorek, Stefan Döring u.a. 日本独文学会春季研究発表会・“Schlechte Zeiten für Lyrik? – Ein Symposium über die neuere Lyrikentwicklung in Deutschland” (早稲田大学)、1992年5月23日

首都ベルリンの魅力、関西大学独逸文学会第95回研究発表会(関西大学)、2002年9月21日

Viktor Scheffel in Japan, 北京大学德国研究中心(ドイツ研究センター) 研討会、2005年9月8日

Heine und Berlin, ハイネ逍遙の会例会(名古屋国際センター)、2006年5月20日

ベルリンにおける文学者たちの墓標と記念碑、関西大学独逸文学会第100回研究発表会(関西大学)、2007年9月29日

ハイネ物語詩の民衆性—ベンゲルザングとの関連、ハイネ逍遙の会例会(名古屋国際センター)、2007年10月27日

ハイネとユダヤ文化学術協会の資料を読む、ハイネ逍遙の会例会(名古屋国際センター)、2009年6月20日

ハイネとイタリア—旅の印象あれこれ、ハイネ逍遙の会例会(関西大学)、2010年10月23日

ビルダーボーゲンに見る家庭観、人種観、関西大学人権問題研究室研究学習会(関西大学)、2011年10月14日

ハイネとフライリヒラート、ハイネ逍遙の会例会(関西大学)、2012年10月27日

ハイネとハンブルク、ハイネ逍遙の会例会(名古屋国際センター)、2014年2月22日

ハイネとポーランド E. J. Krzywon: *Heine und Polen* の紹介、ハイネ逍遙の会例会(名古屋国際センター)、2015年6月27日

その他

- (通訳と解説) Volker Braun: “Meine Werke und die DDR-Literatur” (講演と討論) (関西大学)、1981年10月29日
- (通訳と解説) Volker Braun: “Was kommt?” (これからどうなる) (講演と討論) (関西大学)、2002年5月

